

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール

報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 村上 智裕

今回のサマースクールは、僕にとっては去年に引き続いでのサマースクールであったため、二度目となります。二度目の台湾での研修に参加するため、多くの人から二度も国際交流に参加する理由を聞かれました。しかし、その時点では自分でもその理由を見出しができませんでした。また、今になってもその核心たる理由はわかりません。そういう中で、僕の国際交流に向けた準備が始まっていきました。二度目ということでリーダーに任命され、みんなの統率をとる立場となり、台湾研修に行くことにまだ踏ん切りがついていなかった僕にとっては、自分を奮起させてもらえた一つの大きな要因になりました。今回のサマースクールは、去年と違い、人数が5名から12名に増え、1学年だけでなく1回生から3回生の3学年の学生からなるチームがありました。そのため、同じ学年でも普段の学生生活の中で頻繁にしゃべる関係ではない人もおり、他の学年となれば、なおさら、初めて会う人もいたため、身内からまずはコミュニケーションをとっていかなければならぬという状況がありました。そのため、同学年しかいなかつた去年とは異なったスタートに少し不安を感じました。しかし、最初の台湾サマースクールのオリエンテーション後に行われた会議で、みんながしっかり意見を言い合い、サマースクールに向けての計画がどんどん決まっていく様子を見て、自分が考えていた不安は浅はかな考えであったと訂正させてもらいました。今回のメンバーはリーダーとして何もすることがないのではないか?と感じさせるメンバーだと思いました。台湾サマースクールまで

にそういった会議を数回行ったり、語学スキルアップのため藤枝先生の英会話講座、鄭先生の中国語講座などの授業を受けさせてもらいました。また、台湾サマースクールの文化交流の場で発表するスライドの資料集めとしてみんなで京都散策にも行きました。その中で、メンバー間の繋がり、台湾への想いなどはより強いものになったと思います。台湾サマースクールの準備もしっかりでき、いよいよ台湾に飛び立つ8月10日になりました。しかし、その日は日本に台風が上陸しフライトの時間が三時間以上遅れて、正直体に堪えました。

去年のサマースクールも、帰国時、台風が台湾に直撃するということを経験しているだけに本当に知りないと感じていました。ただ、その日のうちに無事、僕たちが滞在するホテルに到着することができたので本当に良かったです。台湾の空港に着いたときには、僕たちが到着が遅れたにも関わらず、元培科技大学の学生がずっと待っていてくれました。さらに去年のサマースクールでお世話になった人(去年は学生)も次の日が仕事であるにも関わらず待っていてくれて、一年ぶりに会えて本当にうれしかったです。最初からハグニングがありましたが、なんとかサマースクール初日を迎え、大学で歓迎会、終了後は中国語講座や病院



見学など、元培科技大学の学生が考えてくれたプログラムに従って僕たちはサマースクールを楽しんでいきました。去年よりも日数が少ないため、一日一日のスケジュールが本当に過密だったので、休む暇がなかなかありませんでした。その中でも一番体に堪えたのは、最終日に予定されていたパーティにおいて僕たちが披露するはずであった余興(踊り)が、このサマースクールに僕たちと一緒に参加されていた他大学の余興とかぶっていたため、僕たちの余興を一から考え直さなければならぬことでした。去年と同じ余興にしようという話も挙がったのですが、僕たちの引率をされていた石垣先生のご指摘で、本当の白紙の状態からやろうということになりました。最終日のパーティまであと3日という時期での苦渋の決断でしたが、石垣先生は、「あと3日しかないんじやなくて、3日間もあると考えよう」とおっしゃった言葉を聞いて、僕も、またみんなも勇気づけられたと思います。そこから3日間、みんなと試行錯誤をしながら考えていきました。そんな中で追い打ちをかける様に、文化交流の場で京都を紹介するスライドだけでなく、日本のお正月について実演を含めて紹介してほしいと言われた時は、本当にこの場から逃げ出しました。でも、本当に頼りになるメンバーが色々考えを出してくれて、また他大学の学生さんにもこまや羽子板などの道具を貸してもらいました。本番では、元培科技大学の学生さんにも手伝ってもらい、本当にみんなのおかげで急遽やることになった日本のお正月紹介をやりきることができました。最終日の余興も、自分たちが元々考えていた余興よりもはるかにクオリティーの高い余興ができたと思います。僕たちの余興の時は、元培科技大学の学生さんや他大学の学生さんも一緒に踊ってもらい、他大学の余興の時には、僕たちも一緒に踊らさせてもらうなど、最後日のパーティでみんながよりいっそう



仲良くなれました。この一週間のサマースクールは、本当にしんどかったです。ただその反面、得るものが多く楽しかったです。言葉の違う人同士でのコミュニケーションはなかなかうまくいかなかつたけど、それでもお互いが必死に理解しようと頑張って通じ合つた時の喜び。急な変更にもお互いが助け合い、信頼し合つて、最後までやりきつた達成感。しんどい思いをしたからこそ、よりこの一週間を楽しむことができたと心からそう思います。リーダーとしては、みんなに助けてもらうばかりであったので、本当にこのメンバーでよかったと思いました。また、このサマースクールのためにご尽力いただいた先生方、事務の方々、関係者の方々に感謝いたします。



このような機会をあたえていただいたことは本当にうれしかったです。最初の気持ちが自分の納得のいく考え方ではなくても、やると決めたことを最後までやりきれば、よいものを得られるということを経験できました。これから的生活に今回の経験を活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。